

令和5年度 第1回

白石町まち・ひと・しごと創生推進会議議事録

日時：令和5年6月27日（火）10：00～11：30

場所：白石町役場 3階大会議室

1. 開会

○喜多総合戦略課長補佐

おはようございます。定刻の10時となりましたので、只今から、令和5年度第1回白石町まち・ひと・しごと創生推進会議を開催します。よろしくお願いいたします。私、司会進行を務めさせていただきます、総合戦略課長補佐の喜多と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まずもって、まち・ひと・しごと創生推進委員をお引き受けいただきまして、誠にありがとうございます。会議に入ります前に、資料の確認をいたしたいと思います。皆様のお手元にお配りしております資料に過不足が無いかご確認のほど、よろしくお願いいたします。

まず1つ目が座席表ということになっております。それと、次第です。白石町まち・ひと・しごと創生推進会議 次第と題打った資料です。次に、右上に四角囲みで提出物と書かれた効果検証シートです。あともう1つ、カラーで印刷しております、白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略というみのりちゃんが書いてある資料です。それと、右上に資料1と書かれました委員さんの名簿、および役場の事務局の名前も書いてある名簿があるかと思います。それと、右上に資料2と書いております、まち・ひと・しごと創生推進会議設置要綱となっております。もう1つ、資料3、これはA3用紙です。まち・ひと・しごと創生総合戦略事業実施シートというものです。それと、最後に右上に資料4と書いております、肥前白石駅魅力化プロジェクト 放課後起業クラブと書かれた資料になります。ありますでしょうか。過不足ないでしょうか。はい、ありがとうございます。

まち・ひと・しごと創生推進会議でございますけども、人口減少問題に向き合い、地方創生の充実・強化に向け、総合戦略の策定と推進のために、本会議を設置しております。特に本町におきましては、特に若者の町外流出ということで、減少率が非常に大きい状況にあり、町としまして大変危機感を持っているところでございます。

本日の会議は、令和2年度に策定して、昨年度5月に改訂を行っております、第2期総合戦略につきまして、進捗状況の確認と、現時点での効果検証を予定しております。委員の皆様のご意見を賜りたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。それでは、レジュメにより進めさせていただきます。

2. 委嘱状交付

○喜多総合戦略課長補佐

それでは、次第の2、委嘱状の交付ということになります。委嘱状の交付を行いたいと思います。本来であれば、新しく委員になられた方お一人お一人に交付を行うところではございますが、時間の都合上、本日は代表ということで、委嘱状の交付を行いたいと思います。ベントリー久仁子様をお願いしたいと思います。ベントリー様、前のほうをお願いいたします。

(委嘱状交付)

ありがとうございます。なお、他の新しく委員になられた方につきましては机の上に委嘱状を配布させていただいております。これをもちまして交付と変えさせていただきます。

3番、会長挨拶となります。それでは会長であります百武副町長より挨拶を申し上げます。

3. 会長あいさつ

○百武会長

みなさん、改めましておはようございます。本日は、皆様方には大変お忙しい中に、「白石町まち・ひと・しごと創生推進会議」にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、先ほど委嘱状を交付させていただきましたけれども、この推進会議の委員をお引き受けいただきましたこと、重ねてお礼を申し上げたいと思います。皆様もご存知の事と思いますが、新聞報道等でありましたとおり、現在、幸せを運ぶと言われている国の特別天然記念物のコウノトリが、白石町で巣を作り子育てに励んでいるところでございます。このことは九州で初めてのことでございまして、大変喜ばしく、ヒナの成長を見守っているところでございます。現在、合わせてヒナの愛称の方も募集を行っているところでございます。

今日の本題である、まち・ひと・しごと創生の趣旨でございますけれども、東京一極集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある社会を維持していくということで、取り組んでいくものでございます。

本町の人口でございますが、合併しました平成17年の国勢調査では27,057人でしたが、令和2年の国勢調査では22,051人となりまして、15年間で約5,000人と大きく減少しております。町としましても、この状況を大変重く受け止めておりまして、特に若者や子育て世帯に選んでいただけるように、住宅取得への支援、県外からの移住者への支援、新婚世帯への支援など、他の自治体よりも手厚いメニューをそろえております。あわせまして、白石町の魅力向上や、まちづくり団体と行政との協働活動にも力を入れているところでございます。こういった施策を進めておりますけれども、本日の会議では、第2期総合戦略の進捗状況の確認と効果検証を予定しております。

どうか、委員の皆様の忌憚のないご意見をいただきますようお願いをいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

4. 委員の紹介

○喜多総合戦略課長補佐

ありがとうございました。続きまして4番、委員の皆様の紹介をいたします。

○辻白石創生推進係長

総合戦略課の辻と申します。それでは資料1にあります、委員の皆様のご紹介をいたします。

(委員の紹介)

5. 町担当職員の紹介

○喜多総合戦略課長補佐

それでは次第5、町担当職員の紹介となります。事務局、役場職員の皆様ご起立をお願いいたします。職員につきましては、時間の都合上一人ひとりの紹介は省かせていただきます。資料1と座席表をご確認いただけますとおり、15人の職員が事務局となっております。よろしく願いいたします。

6. 白石町まち・ひと・しごと創生推進会議設置要綱について

○喜多総合戦略課長補佐

続きまして、6. 白石町まち・ひと・しごと創生推進会議設置要綱についてということになります。事務局から説明をいたします。

○辻白石創生推進係長

それでは要綱について説明をいたします。資料2になります。本日のまち・ひと・しごと創生推進会議は、この設置要綱に基づき開催をしております。第1条に規定しておりますとおり、総合戦略の策定及び推進にあたって、広く関係者の意見を反映させるために設置をしております。第2条は、この推進会議において審議する事項を定めています。第3条で推進会議は委員20人以内をもって組織するとなっております。資料1のとおり14人の方に委員を委嘱しております。第4条で、委員の任期は3年となっております。現在、令和5年度から令和7年度末までの3年間となっております。人事異動などにより委員に変更があった場合の後任の方につきましては前任者の残任期間をお願いすることとなります。第5条はこの会議の会長は白石町副町長をもって充てられています。第6条で招集は会長が招集し、その議長となります。第7条は会議の庶務について総合戦略課で行うとなっております。要綱と役割についての説明は以上となります。

○喜多総合戦略課長補佐

要綱の件でご質問等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それではご質問等無いようですので次の項目にいかせていただきます。

7. 協議事項

○喜多総合戦略課長補佐

次第7番、協議事項ということになります。ここからは百武会長に会議の議長をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(1) 第2期（令和2～6年度）総合戦略の一部改正について

○百武会長

それでは、私のほうで議長を務めさせていただきたいと思います。冒頭申し上げましたように、いろんなご意見出させていただきますようによろしくお願いいたします。それでは、7. 協議事項に入ります。(1) 第2期 総合戦略の実施状況についてでございます。初めて委員になられた方も多くいらっしゃいますので、協議に入る前に、まず総合戦略の内容の説明を事務局よりお願いいたします。

○辻白石創生推進係長

それでは、第2期総合戦略の説明をいたします。資料は本日、机の上に置いておりました、第1期白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略をご覧ください。総合戦略の策定根拠につきましては、まち・ひと・しごと創生法に基づいております。少子高齢化への対応、人口減少の歯止め、東京圏への人口集中の是正といった課題に対応するためのものとなります。

それでは、総合戦略の1ページ目をご覧ください。はじめにというところの、1番目、趣旨のところです。先ほども説明ありましたとおり、白石町の人口は、平成17年は27,057人、平成27年は23,941人と10年間で-11.5%と大きく減少しています。ここには書いてありませんけれども、令和2年国勢調査では22,051人でしたので、15年間で-18.5%の減少となります。人口減少が地域経済を縮小させ、さらに人口減少を加速させる負のスパイラルの克服と、地方創生に取り組んでおります。3段目の、また、白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略は、白石町総合計画の人口問題等に関する個別計画と位置付けていまして、下に図がありますけれども、この図の中の黄色のところは総合戦略となります。

2ページをご覧ください。2番目の総合戦略の計画期間です。令和2年度から令和6年度までの5年間となっています。3番目の総合戦略の検証・改善・改訂につきましては、PDCAサイクルにより、適切に管理していきます。また、施策の追加が必要な場合などは、必要に応じて改訂をしていきます。

次の3ページをご覧ください。大きな4番目の総合戦略の体系図です。ページの真ん

中にオレンジ色で基本目標①、②、③、④とあります。この目標に基づいて、左側の緑色で囲ってあります、白石町人口ビジョンの将来展望の達成を目指していくこととなっています。具体的には、緑色の2番目、人口の将来展望ですが、1つ目が人口減少を悲観せずに様々な施策により人口減少のスピードを抑える。2つ目に、目標人口を2040年には16,061人、2060年には11,137人とする。3つ目に、合計特殊出生率を2040年までに1.8へ、2060年までに2.0に上げることを目標とするとされています。

ここで、目標人口の補足説明をいたします。この総合戦略の最後のページに、1枚紙を添付しております、白石町の人口推計という1枚紙を一緒につけております。こちらをご覧ください。ここの赤色が社人研推計値となっています。この赤い部分が国の国立社会保障人口問題研究所から出された予測となっています。この推計値に対して、青色で囲っている町独自推計が、先ほどの目標人口ということになります。詳しくは後もってご覧いただきたいと思えます。

9ページをご覧ください。9ページが大きな3番ということで、第2期の基本目標、基本的方向、具体的な施策となっています。四角で囲ってあるページの真ん中に、各基本目標における数値目標や重要業績評価指標（KPI）は、白石町まちひとしごと創生総合戦略における具体的な施策の実行により達成すべき目標を記載しています。したがって、民間企業や個人による雇用など、町では把握できないものは対象外としています。そういったことで、これから説明をいたします実施状況の数値につきましては、総合戦略に基づく事業が対象ということになります。

10ページ以降につきましては、基本目標ごとの数値目標や、めざすべき方向、具体的な施策とKPIとなります。詳しくは後もってご覧いただければと思えます。

それから最後に、表紙に書いておりますけれども、昨年度、令和4年5月に、この会議で承認をいただきまして一部改訂をしております。その改定内容についてご説明をいたします。2か所改訂をしております。1つ目が17ページでございます。17ページの方が、定住促進、移住支援の、移住定住者数のところなんです。数値目標を5年間で80人から5年間で650人としています。下の表がありますけれども具体的な施策につきましては（4）住宅取得者の支援、（5）移住者への支援、この2つを追加したことに伴うものです。2つ目が、20ページです。20ページが結婚推進対策の充実ということで、成婚者数につきましては、5年間で40組を5年間で160組としています。下の方の具体的な施策について（2）結婚新生活支援、右の内容のところを、以前は支援を検討していきます。となっていましたものを、支援をします、といことで改正しております。簡単ですけれども、以上で総合戦略の説明を終わります。

○百武会長

総合戦略について説明が終わりました。このことについて、何かご質問等ございましたらお願いしたいと思います。

この後の実施状況の中でも、何かご質問等あるようでしたら、ご一緒をお願いしたいと思います。それでは、実施状況についてに入ります。ページが多くなっておりまして、基本目標ごとに区切って確認をしていきたいと思っております。まず、基本目標①本気！やる気！元気！しろいしということで、1ページから4ページまで、説明をお願いします。

○福田

総合戦略課 白石創生推進係の福田と申します。私のほうから第2期総合戦略の令和4年度、実施状況についてご説明いたします。まず、基本目標の1ということで、資料3の1ページ目をご覧ください。1、企業誘致や起業等による雇用の確保についてです。K P Iの1つ目は出店数となっており、数値目標は、5年間で起業による出店数3店という目標に対し、令和4年度の実績がゼロとなっております。白石町地域商業活性化支援事業の一環として、公募を2回実施しましたが、問い合わせは数件あるものの、最終的に申請に至らず、昨年度に引き続きゼロとなっております。また、2つ目の企業誘致につきましても、数値目標が、5年間で1カ所という目標に対して、過去3年間で、ともにゼロとなっております。新型コロナウイルスの影響などもありましたが、令和4年度は2社の企業訪問の実施や、企業からの視察や物件調査などが4社から相談があったものの、成立には至りませんでした。今後も、誘致するための町有地や今後出てくる学校跡地の利活用について、公共施設等マネジメントを継続的に行ってまいります。

続きまして、2ページをご覧ください。2の新規就農者及び農業後継者の育成・確保についてです。K P Iの1つ目、新規農業従事者数については、5年間で125人の数値目標に対して、令和4年度は13人となっております。事業実績としましては、新規就農者の確保及び支援として、活用できる補助事業や資金の紹介、各種セミナーや研修会などを実施しました。2つ目のしろいし農業塾卒業生の農業従事者数については、5年間で15人の数値目標に対して、令和4年度は0人となっております。こちらのしろいし農業塾生は県外から移住された方が対象となり、令和3年度にて県外からの研修生が0人だった為、令和4年度卒業生も0人となっております。3つ目の農業従事者（被雇用者）数については、5年間で25人の数値目標に対して、令和4年度が1人となっております。こちら的人数は、あくまで町で把握している新規の被雇用者数となっております。

3ページをご覧ください。3番目の新しいことへ挑戦する人への積極支援についてです。K P Iの1つ目、起業・創業者数は5年間で3人の数値目標に対し、令和4年度が5人の実績となっております。こちら商工観光課窓口での対応だけでなく、商工会と連携した支援を行うことでK P Iの目標を達成しております。1つの例として紹介となりますが、地方創生の起業支援金を活用し、対象者に対して支援を行った結果、町内でのイタリアンレストラン開業に繋がった実績がございます。2つ目の、璃の香作付け農家数は5年間で3戸の数値目標に対して、4年度は8戸となっております目標値を大きく上回

っております。新規農産物作付拡大推進事業や作付講習会などの取組により目標を達成しております。

続きまして、4ページをご覧ください。4のふるさとで活躍する人材の育成についてです。KPIとして、企業等と学校が連携する取組の数を設定しております。数値目標は5年間で20回となっており、令和4年度が4回の実績となっております。紙面、下の方にグラフを記載させていただいておりますが、一度、行った取組は実績数値に含めておりませんので、実際に、行った取組となると、令和3年度、4年度、共に9回となっております。主に白石高校や佐賀農業高校と連携した事業を実施しました。また、令和4年度には、『みらい発見塾』として、佐賀新聞社と連携し、町内高校生が地域の現状や課題について考え、改善案を出し、町長へプレゼンテーションを行いました。また、企業と連携し、地域の課題や魅力についてグループワークを行い、各参加者が自己と向き合い、今後の白石町をどのようにしていきたいのか考える『らしき教育』も行いました。そのほか、職場体験学習に関しましては、令和2年度、3年度と新型コロナウイルス感染症の影響に伴い中止しておりましたが、令和4年度は中学2年の生徒を対象に194人が57事業所において体験学習を実施しました。基本目標①の説明については以上となります。

○百武会長

ただいま基本目標の①、1ページから4ページまでの説明がありました。ただいまの説明について、ご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

○委員

新規就農者の事ですけれども、離職者の割合はどれくらい分かりますか。その割合に比べて多いのか少ないのかということに気になるところです。50代60代の方々に、新規ではなくて離農される方はどれくらいなのかと聞きたいのですが、それを補完するような数字になっているのかという気がしますけれども。

○吉村農業振興課長

ちょっと手元の方に離農者については持っておりませんが、農業については、農林センサスということで国の統計がとられています。数値についてはそちらで把握をしているんですけれども、おっしゃるとおり、高年齢での離農というのは増えておりまして、そこを新規で補うという数には達しておりませんので、全体的には減少傾向にあるというような状況です。

○委員

ありがとうございます。もう1点いいでしょうか。新規に農業に就かれる方に対するサポートとして、今どのような事業を行われているんですかね。

○吉村農業振興課長

新規就農者といいますと、例えば親元で親が農業をやっているところに就農をされる方と、うちの方が町で農業塾だったり、トレーニングファームということで、移住者の受

け入れと2つ種類がございます。親元の就農についてはちょっと書いておりますけれども、やってみようセミナーとかですね。これは、地域も親元も全てなんですけれども、そういうセミナーを佐賀県と一緒に開催をしたりとか、あと白石町の方で青年実業者会というのを作っております、農業に従事する同じ若手の集まりですね。そういう組織も作っております、定期的な研修だったり視察を行ったりとか、そういうサポートを行っております。その他については町の農業機械の補助等も行っているところです。

○委員

ありがとうございました。私の周りにも私もそうだったんですけれども、新しく農業に就こうと思うと、収入がある月とない月、不安定であるというのが1番就きにくいというか農業としてやりにくいね、というのをよく聞くので、そこを何とかできるような、サポートできるようなものがあればいいなと時々思うところです。あと1点、新規に就かれる時に土地をどうするか。というのを皆さん、どうしたら土地が手に入るだろうとか、借りられるんだろうかとか、そういうところがまだ浸透していないなという気がしているので、そこは私を感じたところです。以上です。

○百武会長

最後の土地の問題についてはどうですか。

○吉村農業振興課長

新規就農の中でも書いておりますけど、(2)の項目でしろいし農業塾だったり、いちごトレーニングファームということで、いわゆる新しく就農する方が全く0の状態から農業を始めるためのノウハウを教える塾のようなものを作っております。これは町だけではなくてJAさんだったり、佐賀県ですね、ちょうど白石町に杵島農業振興センターという出先機関がありますので、いちごについてはJAのいちご部会の実際の生産者さんですね、そういう方の協力を受けてやっております。そのほか町の農業委員会もその組織に入っております、例えば〇〇地区で農地を探したい、また空き家を探したいということであれば、こちらの総合戦略課の方で対応をしております。やっぱり家が近いとか、就農者の希望に応じてサポートをしているところです。

○百武会長

他にございますか。

○委員

ふるさと学の推進ということで、小学校3年生社会科で地域について勉強するということなんですけれども、その内容を詳しく教えていただけたらと思います。

○出雲学校教育課長

私の方から説明をさせていただきます。小学3年生といたしますか、「わたしたちの白石町」という副読本を3年に1回発行しています。昨年度これをまた、作成したんですが、これは小学4年生を対象にしておりまして、白石町について知ってもらおうということで、総合学習等で取り組んでいただいております。子供達がそれぞれ興味を持った

ことについて取り組んでもらうということで、先生方がこれにということじゃなくて、副読本等を利用して、勉強して、実際もっと学びたいというところで、水路について学ぶとか、山について学ぶとか、海について学ぶとか、環境について学ぶとか、そういう風なことをやっております。

○委員

はい。ありがとうございます。私はパートナーがアメリカ人で彼の眼を通して白石の良さだったり、文化の深さだったり、そこの辺りを見せてもらったことでより地元が好きになったということと、主人の意向で日本の小学校教育を受けさせたいということで、こっちでの子育てを決めたという経緯もあったので私たちが気づけていない良さというのが子供たちに伝わると、結果、将来自然にUターンに繋がっていくのかなというのを常日頃、意識しているということもあってお尋ねさせていただきました。ありがとうございました。

○百武会長

ありがとうございました。他にございませんか。

○委員

定住とか移住のところなんですけど、JR通学者・通勤者の利便性向上になるんですけども、江北町と白石町の違いはそこかなという気はするんですけども、便数が全然違いますよね。倍以上、3倍くらいの便数の差がありますが、そこをなんとかできないのかなと。例えば、江北駅へのアクセスが白石駅からそんなに良くないですよ。そこを変えるとかいう発想があっていいような気がするんですけど、ここに書いてあるのは白石駅の周りの環境整備について書いてあるんですけども、それで利便性がよくなるとはとても考えにくいです。そこは何かかならないものなんでしょうかね。例えばダイレクトに白石駅からJRで江北駅までの時間が無いのに、特急は江北駅に停まる。その時に専用のバスを通すとか、そして、白石駅から江北駅へのアクセスを多くするとか、そういったアイデアというのは無いんでしょうか。

○喜多総合戦略課長補佐

白石駅の便数が、というお話ですが確かに私の息子もいま高校生で白石駅を使って高校まで通っているのですが、言われるように便数が少ないな、というのは現実思います。言われる、江北へのアクセス、特急が停まる駅へのアクセスが良いと、やはり利便性は向上するのではなかろうかというところは私も思うところでございます。ですが、実際に電車を通すということになると、なかなかうまくいかない部分があるのかなと思います。JRさんで今、運行をさせていただいているんですけど、増やしていただければ1番いいんですけども、先ほど言われたような江北駅へのアクセスの向上、バスを通すとかそういったところも貴重なご意見として賜りながら、公共交通として皆さんが使える、ほとんどの人は車で移動できるというところで、私もちょっとそうだったんですが、あまり公共交通機関に乗ったことがなくて、車でばっかりなんですけれども、実際に子供

が動くとか免許返納されたお年寄りが動くということを考えた場合、公共交通が今のままで良いとは思っておりません。なるべく、アクセスの良いところへアクセスできるような形をとりつつ、前向きに検討をさせていただきたいと思っております。ただ、すぐにできるものというわけでもございませんので、そこは検討をさせていただきます、という回答でよろしいでしょうか。

○百武会長

このことについては皆さんご存知のとおり、新幹線が開通しまして長崎本線が上下分離ということで便数とか、大幅に見直しが出されまして、これに伴って白石高校、佐賀農業高校へ通う生徒たちが特に困ったということもあります。時間帯が少しずれたとかですね。そういった問題が出てきまして、町の方では、JR九州の方へ出向いていろんな要望活動をしたりとか、それから鉄道事業部の方と定期的にいろんな協議の場を設けてもらいながら要望活動をしているところでございまして、ただいまの意見についても今後JRの方へ伝えていきたいと思っております。ということでよろしく願いいたします。他にございませんか。はい、お願いします。

○委員

2ページの農業従事者（被雇用者）確保対策という項目があるんですけども、これの意味というか、これは町の方に登録をして、町から研修生に対しての費用を助成するとか、そういった目的なのでしょうか。個人でするんじゃないかと、町で行う事業なんではないかと。そこらへんを教えてください。

○吉村農業振興課長

ちょっとこれが町で把握している分だけでしかありませんけれども、個人の方で整理ができないかということで、補助を受けた分を町の方とかあと県とかとお話をしまして、受け入れができないかということで、いわゆる斡旋のような形をしたのが事業実績ということですね。以上です。

○百武会長

追加で説明ございますかね。

○木須保健福祉課長

4年度まで農業振興課長を務めておりました木須と申します。ちょっと補足説明をさせていただきます。この3番目の農業従事者（被雇用者）の確保対策ということで挙げております数字は、先ほど吉村課長が言われたように、町が把握している数字ということになります。ここの数字につきましては、町内に結構、大規模な農家さんが法人化されている農家がございます、そこはどうしても雇用で農業作業員を雇いたいという話が、かなりあります。そういった時に、ここについて県の方とか町の方でそういった話があった時は、年間1,500,000円程度、雇用費の一部を充てていいよ。という事業もございます。そういったところを活用していただいて、町内の農業者を多く残したいということでございます。

○百武会長

よろしいでしょうか。他にございますか。

○委員

1枚目の企業誘致のところ、相談とかはあっているようなんですけども、なかなか申請だったり、成立に至らない理由というのは、どういう風に分析をされているのでしょうか。

○喜多総合戦略課長補佐

なぜ断るのか正確には聞き出せていないんですが、やはり条件面で合わないとかいうところもございます。昨年、4件ありましたところの、1つで申し上げますと、スマート農業系の会社さんが視察にいらっしゃったんですが、他の市町さんも見られていて、白石町だけに決め打ちされているわけではございませんので、他の市町さんの方に比べて、そちらに行かれた、というところがございます。そちらの方は高速道路に近いとか、そういった条件面でも負けたのかなという分析があります。あとは、運送会社さんから見に来られて、ドローン等を活用した物流を探しているというご提案という形で、白石町に売り込み的なものも大きかったんですけども、そういったところでもございました。後は、倉庫を探されているとか、そういったところもございましたけれども、実現、誘致には至らなかったというところで、分析というわけではないんですが、やはりその、交通の便というところ、それと軟弱地盤というところがやはりひとつ引っかかる部分ではなかろうかな、ということですね。新たに建物を建てる際に、もともと海であったというような、軟弱な地盤、そういったところがやはりちょっと要因としてあるのかな、という気はいたしております。以上です。

○百武会長

他にございませんか。はい、それでは以上で基本目標の1を終わらして、次に基本目標②来たか！住みたか！よか！しろい！というところですが、5ページから7ページまでです。説明をお願いします。

○福田

それでは、5ページをご覧ください。基本目標②になります。1.白石町の魅力発信についてです。KPIにある、町ホームページアクセス件数について、令和6年度の数値目標が年間528,000件であることに対して、令和4年度が599,880件の実績となっております。令和3年度に比べると、4年度は新型コロナウイルス感染症に関する情報提供の見直しに伴い、アクセス件数が1割ほど減少しておりますが、引き続き、目標値を上回る数字がでております。観光関連では、令和4年度に、本町でレンコンの栽培が始まり100周年を迎えたことを踏まえ、道の駅しろいしで記念セレモニーを実施いたしました。また、道の駅情報発信コーナーにて、観光パンフレットの配置、季節に合わせた町内観光情報の紹介や、令和3年度、好評であった、6次製品の紹介や道の駅のデジタルサイネージを活用し、引き続き町内の観光情報の発信を行いました。

続きまして、6ページをご覧ください。2の定住促進、移住支援についてです。KPIの1つ目、空き家・空き地バンクの登録件数は、5年間で40件の数値目標に対し、令和4年度が13件の実績となっております。また、令和4年度は5件の登録物件が活用され、5世帯16人の方が町内の空き家に住まわれました。また、施策の4番目、住宅取得者への支援、5番目、移住者の支援ですが、令和4年度からの新規事業となりますので、簡単に概要を説明させていただきます。まず、住宅取得者への支援についてです。「ずっと住まいる支援事業」ですが、住宅建設用地を購入して、購入した用地に住宅を新築する場合には一律100万円の補助、住宅建設用地の購入を伴わずに、住宅を新築する場合は一律50万円の補助、建売・中古住宅を購入する場合は最大100万円の補助をいたします。「みんなで住まいる応援事業」は新たに親と同居するためにおこなう既存住宅の増改築にかかった費用を最大50万円の補助をいたします。どちらの事業も、夫婦ともに39歳以下または中学生以下の子どもがいる世帯を対象としております。

次に、県外からの移住者への支援についてです。「東京圏在住者移住支援事業」は以前から実施しておりましたが、東京23区に在住、または通勤していた方が白石町に移住し、就業等の要件を満たす場合に最大で100万円を支給します。また、さが暮らしスタート支援事業については、令和4年度より新たにスタートした事業となりますが、佐賀県外に5年以上在住していた49歳以下の方が白石町に移住し、就業等の要件を満たす場合に最大で100万円を支給いたします。以上の3つが令和4年度から始まった新規事業となります。それでは改めて、KPIの2つ目、移住・定住者数についてです。こちらの数値目標ですが、新規事業の開始に伴い、令和4年度に見直しを行い、5年間で650人に改正しております。それに対しまして、令和4年度の実績が55人となっております。こちらの数字には、『空き家・空き地バンク事業』を利用し白石町に移住された方が5世帯で16人、先ほど説明をいたしました、令和4年度より実施することとなった、『住まいるしろいし応援事業』により住宅を取得された、定住世帯が5世帯で24人、移住世帯が3世帯で13人、『さが暮らしスタート支援事業』により県外から移住された1世帯で2人の方が含まれております。

7ページをご覧ください。3. 地域観光資源の再発見についてです。KPIの1つ目、観光入込客数は、令和6年度の数値目標が年間386,600人であるのに対し、4年度が825,289人となっております。道の駅への来場者数の増加や、地方創生推進交付金を活用した、様々なイベントの開催により、大幅に増えております。2つ目の観光ルート数については5年間で3本という数値目標に対して、令和4年度に1本追加し、合計4本となっております。この数値は、各年度時点での観光ルートの総数となっております。そのほかシェアサイクル事業などにより、道の駅観光情報コーナーに町内のサイクリングコースマップ、チラシを設置することで、手軽に町内を観光できる環境整備を行っております。基本目標②の説明については以上となります。

○百武会長

基本目標②についての説明が終わりました。ただいまの説明について、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

○委員

アイデアというかご提案というか、最近私が意識をしていたところと繋がるなというところでのことになるんですけれども、観光体験の充実ということで、自然体験等のプログラム、というところで、今デジタルデトックスという動きがあるというのを最近知りまして、私が子供たちに関わる仕事をして、学習塾をさせていただいているんですけれども、夏を迎えようとしている今、塾生の携帯との付き合い方がとても気になっていたんですね。それで、月1回学習会というのを実施しているのを携帯と離すような時間を作れないかなというので、デジタルデトックスと検索したところ、そういう動きがもうあったみたいで、日本には10年程前に入ってきていて、もうアメリカだと、国というか州でそういう機関を作って医療が関わって、そういう動きをしている、ことだったんですね。それでやっぱり社会問題になっていたんだなというところで、そのデジタルデトックスというのを、知っていこうとしていたところで、白石町の良いところというか、外に発信できる、自慢できるところってなんだろう、と思ったときに、豊かな自然と自然体験とかできる環境があるんじゃないかなと、ちょっと思っています。これから先を考えていった時にも、デジタルデトックス、携帯と離れて生活をするといった事ではなくて、共存していくという考え方みたいで、新しい休息の入れ方というか、そういう事を大人になってからも必要だとは思いますが、子どものときから当たり前のこととして身に着けてほしいなと思っていたので、それを町でしていただくと大変ありがたいなと思います。ですので、それを町おこしと繋げて、何かできないかなと思ったところです。以上です。

○百武会長

非常に難しい質問ですが、商工観光課長何かありますか。

○谷崎商工観光課長

ご意見ありがとうございます。デジタルデトックスの話を聞かせていただきまして、私もちょっと正直に言いますとあまり詳細は分かっておりませんが、今のお話を聞いておまして、非常に大事なことでないと認識をいたします。本町では学校教育の方では、PTAと学校、地域の方々などと一体になっていただきまして、農業、田植え体験でありますとか、収穫体験でありますとか、そういうものも本町は昔から子供達には小学校の時代から取り組みをなされている、というのがございます。それで私共、本町の商工観光課といたしましても、7ページの方に書かせていただいておりますけれども、現在検討しておりますのが、農漁村の体験ツーリズムというようなことで、全国の高校生、中学生、特に高校生になるかと思っておりますけど、対象と考えておまして、一応、農業体験をしていただくような修学旅行の方を、来年度実施をしたいということで今現在、検討、

準備をしているところでございます。そういうことでデジタルとちょっと離れて、やはり人としてといいますか、ちょっとすみません、この辺は私にとっても難しい話なんですけれども、やはり人として成長していくなかで、白石町のなかで農業や自然などと触れ合っていたきながら交流人口の拡大にも繋げていきたいということで町としては取り組んでいきたいと思っております。すみません。ちょっと回答にはなっていないかもしれませんが、よろしく願いいたします。

○委員

ありがとうございます。私もデジタルデトックスについては、知り始めて2～3週間くらいなんですけど、目的とかやり方としては、デジタルデバイスと離れた時間を作る、ということと、その時に自然と繋がるということみたいなんです。子供達を見ていて思うのが、手持ち無沙汰になると携帯を触るということで、そのなかで、今おっしゃったことと合わせて考えたときに、大人の方のデジタルデトックス、実際にデジタルデトックスを目的としたキャンプというのが行われていまして、それを農業体験で打ち出すというのもすごくいいんじゃないかなと思います。そのデジタルデトックスという言葉 ちょっと添えるだけで、注目してくださる年齢層が変わるんじゃないかなということと、あと目的ですね、農業体験ということだけではない、そこに目的とか興味が今のところ無い方でも、興味を持ってくださるんじゃないかなという風に感じました。ありがとうございます。

○百武会長

ありがとうございます。他にございませんか。

○委員

6ページのJRの(2)なんですけど、白石駅の周辺について、いろいろ今後、協議中と書かれておりますが何か具体的に案等がありましたら教えていただけないでしょうか。

○喜多総合戦略課長補佐

今のところ案というものはございません。今、白石駅を見ていただけると分かると思うのですが、非常に狭くて子供たちが通学の際、軒下にひしめきあうように、目白押しでおられました。そういったところの解消等がなんとかできないかなというところで、ずっと協議は行っております。運行がJR、敷地については佐賀長崎鉄道管理センターが管理するという形になりまして、その辺の敷地利用について、今のところ協議中でございます。どうにか使うことができないかなというところで、ずっと交渉を続けているところでございます。白石駅の周りをどうしていくか、どうしたら使いやすいのかというところを考えていく中で、ちょっとこの後、お話が出てきますが、資料4の方でお配りしております、この放課後起業クラブ、JR肥前白石駅プロデュース事業ということで、高校生さんとか大学生さんのいいアイデアが無いですか、という形でプレゼンしていただきたいということで、再来月の8月に行う予定となっております。そういった実

際に使用している高校生とかのお話をお伺いしながら今後どのように整備を進めていくかと、もちろん土地が使える、使えないというところも、一番その大きな問題がありはするんですが、そういったところを含めて検討を進めていきたいと考えております。以上でございます。

○委員

ありがとうございます。本校の方も昔と比べると、結構電車を利用している生徒の割合が増えまして、先ほどあったとおり、ホーム辺りでかなり生徒が集まったり、ウロウロしているような状況もあって、いろんな意味で駅の再開発ではないんですけども、そういったところが、学校としても課題なのかなと思っております。以上です。

○百武会長

ありがとうございます。他にございませんか。

○委員

先ほどの質問に関連することなんですけれども、私が現在ちょっと問題だと思っているのは若い人たち、高校生以降の人達がアイデアを作れない。アイデアを作れないような学校教育になっちゃっていて、先ほど言われたデジタルデトックスなんですけれども、道具の使い方は上手なんですよ、検索は上手なんです。調べることは上手なんですけど調べたらおしまい、というそれから新しいものを作れない、というのが今の現状かなと思っておりまして、それを補完するのが先ほど出ていたような、いろいろな体験、地域の体験、そんなものが大切だと思う。私たちの頃はデジタルなんてものが無かったから、遊ぶものに関しても作るしかない。どんなことにしても遊ぶにしても作るしかないし、田んぼに入ったり、どうやってフナを捕まえて増やすとか、ザリガニをどうやって捕まえるかという、いろんな考えを出していたんだけど、そういう事を今の小学生、中学生やっていないですよ。そういった事を白石町はできるんじゃないか、という気がします。白石町で子育てをすれば、そういった子供たちの教育ができる、というようなものがおせたらもっと人が来るんじゃないかと思います。例えば、教育は白石町だとこんな教育が受けられると、こういう子供たちが育っていくよと、そうすると将来的にいろんなアイデアを出せる、学校を出た後にどれだけ働けるか、アイデアをだせるか、というそういう教育ができるのは白石町だ、というのをおせたらいいなと最近ずっと思っていたんですよね。それで今日ちょっとお伺いして、いろんなこういった体験だとか、いろいろなタイミングでいつもできる。単発的ではなくて常にできているようなのが、白石町の教育だとウリにできれば、もっと定住者が増えるのかなという気がしていたところです。ちょっとすみません、私の勝手な意見なんですけれども。

○委員

まさにそれで、子ども達を見ていて情報が常に与えられるので考えようとしなくても情報があるので、たぶんクリエイトするのに脳を使ってないなというのはすごく感じていて問題視していたところです。主人が教えてくれた自然の凄さであったりカルチャー

の深さというのを財産と考えた時に、子育てをここでしたいといったことを考えたときに、子育てがしやすいというのは安全面だけではなく、もちろん安全だし、食べ物も美味しいし、さらにこの自然の中で、風に触れたり自然を眺めたり、ぼーっとしたり、もちろん不自由な中の自分で見つけていく自由を作り出していく力を、体験を通して作り出す、人間的なところを磨けるじゃないかなというのを本当にまちおこしの1つとして、わざわざ謳っていく必要は無いのかなと前は思っていたのですが、まちづくりというのを考えると、それを言葉にして伝えていくということも、これからやっていく必要があると思います。

○百武会長

学校教育課から何かございますか。

○出雲学校教育課長

ありがとうございます。少し話が逸れるかもしれませんが、今、学校再編をしております、中学校が来年度開校いたします。小学6年生の子供たちがスムーズに中学校に進めるようにというところで、どうやって触れ合わせるのかというところで、一度に会するのは難しいものですから、オンラインでの授業をやっているところです。そこで白石町のクイズとしまして、白石町を知る、というところを現在しているところです。第2弾として、白石の故郷を知る検定ということで、クイズに回答しながら白石町について楽しく学ぶというようなところで、故郷に愛着や誇りを持ってもらおうというところで進めています。これから先はここでお話するようなどころまできていないんですが、1つの案としまして、白石町が歌垣の郷、日本三大の歌垣の郷でありまして、やはり短歌に触れてもらいたいと、白石町内いろいろ歴史的、文化的なところがございまして、例えば、福泉善治、上流歌人の泉式部ですかね、誕生の町というような話もありまして、そういうところに触れ合いながら、子ども達が短歌を詠んで、そして白石町を知る、自分の町に誇りを持ってもらう、このような流れになっていけばなというようなことをちょっと考えているところで、まだまだ案や考えなんですけど、ただ、そういう事を通じて子ども達に今後、わが町の良さや誇りを持ってもらって、もっともっと白石町を知ってもらって、外に出ていってもまた帰ってきてくれたらな、というような思いでいるところです。

○百武会長

それでは、他にございせんか。はい、それでは次に③ですね。うれしい！楽しい！大好き！しろいし！8ページから11ページまでになります。説明をお願いします。

○陣内主事

白石創生推進係の陣内と申します。基本目標3と4については、私から説明をさせていただきます。それでは、基本目標3ということで、8ページ目をご覧ください。

1、結婚推進対策の充実についてです。KPIは成婚数ということで、数値目標を令

和4年度に見直しをいたしまして、5年間で160組に改正をしております。それに対する実績ですが、申し訳ありませんが修正をお願いいたします。令和4年度は18組です。内訳につきましては、施策(1)婚活サポート事業での拡充で5組、(2)結婚新生活支援事業で13組となっております。それぞれの実績につきまして、簡単にご説明をさせていただきます。(1)婚活サポート事業では、登録制度を設けておりまして、その中で6人の方がご成婚をされておられます。うち1組は登録者同士ということで、組数としては5組となります。さらに令和4年度は、コロナ禍が落ち着いてきたこともございます。11月に婚活セミナーを実施いたしました。また、年明け2月には婚活イベントも開催しておりまして、今回は、道の駅近くにございます「いちごの駅」を活用したいちご摘みのイベントを行ったところです。このイベントの結果といたしましては、4組のカップリングが成立をしております。続きまして、(2)結婚新生活支援のほうですけれども、事業内容に記載しておりますように、新婚世帯の住宅にかかる費用を支援する補助事業となっております。こちら令和3年度から実施をしております。大まかな要件と補助額については、その下、①～③に記載のとおりとなっております。なお、③の内容につきましては、令和4年度から新規に追加した補助メニューとなります。この令和4年度の補助実績総数は15件ございました。内訳といたしまして、新規の申請としてリフォームが1件、賃貸(アパート)が12件となっております。そのほか、前年度から継続補助が2件ということで総数15件でございます。その下、参考で年齢も記載しておりますけれども、29歳以下が11件、39歳以下が4件となっております。

それでは続きまして、9ページ目をご覧ください。2の出産支援についてです。KPIの合計特殊出生率について、令和6年度に1.5を目標としておりますけれども、令和4年度におきまして現時点では数値が出ておりませんので、未記載としております。出産に対する支援として、不妊治療に対する治療費の助成や多子世帯への保育料の軽減措置を行なっているところです。なお、不妊治療につきましては、令和4年度から基本的に保険適用となりましたけれども、保険適用外の治療を選択される場合もございますので、その費用に対して、町独自の助成を引き続き行なっているところでございます。

それでは10ページ目をご覧ください。3の子育て支援についてです。KPIといたしまして、子育ての感じ方満足割合についてですけれども、就学時前児童親、小学生親のそれぞれで数値目標を設定しておりますが、こちらの実績数値につきましては、5年に1回の町民アンケートをもとに集計をされますので、令和4年度におきましても実績については未記載としております。子育て支援の内容につきましては、妊娠届け出時の妊婦相談から始まり、乳幼児全戸訪問であったり、子どもの医療費助成であったり、母子手帳アプリの利用促進、一時預かりなど幅広い支援を行ないますとともに、専門機関と連携しながら継続的な支援を実施しております。また、5の公園施設関係ですが、特にふくどみマイランド公園におきまして、令和4年度に遊具の改修に着手しております。

こちらは今年度5月に完成しているところです。併せて、トイレの改築も行ったことにおきまして、全体として安全で魅力的な公園が整備できております。そのほか詳細につきましては、ご確認の程お願いいたします。

11ページをお願いいたします。4、教育環境の整備についてでございます。コミュニティ・スクールの導入・継続につきましては、町内全小中学校を目標としておりまして、各小学校で既存のコミュニティスクールが継続をされているところです。また、令和6年度開講予定の新制中学校への新たなコミュニティスクール導入に、というところにつきましては、担当課の準備委員会の中で検討をされております。また合わせまして、教育環境の整備につきましては、こちらも町内全小中学校を目標としておりますが、新設中学校の開校に向けて、協議・決定を行なっているところです。また、小学校再編計画につきましては、昨年度作成し、住民説明会及びパブリックコメントを実施しております。基本目標③については以上になります。

○百武会長

基本目標③について説明が終わりました。ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

よろしいですかね。それでは無いようですので、基本目標④つながる！温もる！かがやく！しろいし！12ページから14ページまで説明をお願いします。

○陣内主事

それでは、12ページをご覧ください。ここからは、基本目標4ということで説明をさせていただきます。1、町民協働によるまちづくりについてでございます。KPIの1つ目の、地域づくり協議会の設立数についてですけれども、5年間で8カ所の目標に対しまして、令和4年度に1地区設立しましたので、現在の合計は2カ所となっております。KPI2つ目の、NPO法人の設立数につきましては、5年間で3件の目標に対しまして、令和4年度に1件設立がございました。その為、こちらも現在、合計2件となっております。詳細な事業実績ですけれども、(1)地域づくり協議会の設立支援のところは、まず、①モデル地区の取組支援につきましては、令和4年度は六角地区のほうで地域づくり協議会が設立・発足をしております。また、③未実施地区への説明会については、令和4年度は有明地区での全体説明会、それと戸ヶ里地区への出前講座をおこなったところです。最後に、④の地域づくり協議会設立後についてですけれども、令和3年度に設立された須古地区におきまして、役員会やイベントに出向くことでフォローアップを行っております。その須古地区なんですけれども、広報活動に力を入れられておられまして、各種SNSで発信を行われていらっしゃるようですので、参考までにその登録者数を下の方に記載しております。(2)NPO法人やCSOの活動支援に関しましては、②のところなんですけれども、町独自の「地域づくり団体設立・活動支援事業」という補助事業がございます。そちらを活用していただき、支援を行なったところです。活用実施団体はその下に記載しているんですけれども、SHIROISHI Inno

v a t i o n L a bという団体が2回、須古地区地域づくり協議会で1回活用されておりまして、それぞれ町おこしにつながる活動を実施されたところです。特に須古地区地域づくり協議会が実施されました「子どもくんち」では、小・中・高校生が企画・運営・広報の全てに携わられておりまして、その結果、町内外から約500名の集客があったということで、大変盛り上がったということをお聞きしております。

それでは13ページをご覧ください。2、安心・安全で快適な住みよいまちづくりということで、K P Iにあります自主防災組織の組織率につきましては、5年後に100%の目標にしておりますけれども、令和4年度は前年度から変わらず25組織にとどまっております。なお、パーセントの表示が0.1%増えていることについてですけれども、もともと、このパーセントの出し方が、自主防災組織への加入世帯数を町の全世帯で割っておりますので、R4年度は前年度に比べ、母数となります町内全世帯が減ったことによって、実績数値が上がったような見え方になっておりますので、ご承知おきください。事業実績といたしましては、組織率向上のために、地区公民館であったり、老人会、地元サロンに対しまして、防災出前講座を実施しております。そのほか、それぞれの担当課のほうで、住宅の耐震改修事業であったり浸水対策事業、高齢者に係る各種住宅改修などを実施しております。

最後14ページの方お願いいたします。誰もが活躍できるまちづくりについてでございます。K P Iの1つ目、健康体操サロン数は、令和6年度に35カ所の目標に対しまして、令和4年度は27カ所となっております。コロナ禍の影響で活動を自粛された期間もございましたが、専門職の派遣や研修などを通して、サロンの継続支援を行ったところです。また、K P Iの2つ目、シルバー人材センター年間登録者数については、5年後に120人の目標に対しまして、令和4年度は前年度同様、109人となっております。こちら町からの補助金の交付などによりまして、運営を支援しているところでございますけれども、新規会員の確保に苦慮されている状況が続いております。そのほか、K P Iには直接反映されませんが、施策(2)の女性の活躍推進ということで、事業実績の④に記載していますように、女性団体連絡会が設立総会を開催されるにあたり、その支援を行なったところでございます。この連絡会での活動内容として、自治公民館単位での女性部の創出であったり、各審議会への女性の登用、災害発生時でのサポートといった目標を掲げてこの団体は活動されていっております。また、女性の活躍について、町長にも要望書を提出されているところでございます。そして、今年度のことにはなるんですけれども、来月、7月30日に総会と女性フェスタの開催を予定しておりますので、現在それに向けて引き続き支援をしているところでございます。そのほか詳細につきましては、ご確認のほどお願いいたします。

○百武会長

基本目標④について説明が終わりました。ご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

○委員

地域づくり協議会についてお伺いしたいというか、お願い的なものなんですけども、私、いま六角地区の地域協議会づくり、隣の校長先生とやったんですけども、総合戦略課の手厚い保護のもとに、かなりコントロールされて、かなり脱線したりしながらも、ちゃんとコントロールされながら、設立までいったんですけども、今の状態はもう完全にコントロールを失って、糸の切れた凧状態になっているような感じがしているんですよ。そのメンバーなんですけれども、それをできれば、半年に1回とか3ヵ月に1回とかでコーディネーターの方に来ていただいて、方向を失っていないか、とかいう自分たちで見えないところを外部から検証をしてほしいなという気がしていて、ちょっと須古地区がどういう状況で、制御されているかわからないんですけども、六角に関してはコントロールを失っているような状況だったのでそういったフォローアップ、例えば、イベント等に参加していただくフォローアップではなくて、コーディネーターの方がいらっしゃいますよね、そのコーディネーターの方からもご意見をいただいて、ちゃんと組織として運営ができていくかどうかというチェックがあると、今後、崩壊することなく進むんだろうなという気はしているので、そこを検討していただければと思います。以上です。

○百武会長

はい、お願いします。

○辻白石創生推進係長

先ほど出ました、コーディネーターの方には須古地区、六角地区の状況は定期的にお話を伝えています。須古地区の方、六角地区も定期的なフォローアップということで、コーディネーターの方も要請すれば来ていただけますので、一応こちらからも状況は伝えていますけれども、また日にちを設定して、再度、半年に1回とかできれば、こちらでも対応したいと思います。

○委員

すみません、地域的なお願いだったんですけども、他の地域での協議会の推進というのはどのような状況なのか教えていただければ幸いです。

○辻白石創生推進係長

例年、現在の小学校区ごとに、区長さん、駐在員さん、公民館長さん、あと、民生委員さんまで呼びして、説明会を令和2年度、3年度とやってきまして、昨年度が有明地区の方で、どうでしょうかということで、有明地区全体でやるのか、あるいは小学校区でやるのか等を含めて、地元の方や議員さん方とお話していました。その中では結論はまだでていない状況で、ちょっと今そこで立ち止まったような状況になっています。今後、そういった方向で、どこを切り口に進めていくのかということ、を、いまずと模索中という状況になっています。他の地区でも、手が挙げれば対応はしていきたいと思っています。

○百武会長

これについては5年間で8カ所という目標がございますので、これに則って頑張っていきたいと思えます。他にございませんか。

それでは全体を通して、これを言い忘れたとかあればお願いしたいと思えます。

はい、それでは、他に無いようでございますので、疑問点等あれば、この後でも結構ですので事務局の方へお尋ねしていただければと思えます。それでは続きまして、協議事項(2)第2期総合戦略の効果検証シートについてに入ります。説明をお願いします。

○辻白石創生推進係長

それでは、資料1枚紙で右上の方に四角で提出物と囲ってあります裏表1枚紙をご覧ください。委員の皆様は、令和4年までの実績時点での効果検証をしていただきたいと思っております。1番目の目標ごとの評価としまして、KPIの達成度合いや、目標達成に合致した取り組みかなどを総合的に判断していただいて、下のABCのどれか一つに○をつけていただきたいと思えます。それが基本目標の項目ごとに評価をしていただきたいと思えます。それから裏面の方が、大きな2番目としまして総合的な評価をしていただきたいと思えます。これは全体を通してABCのどれか一つに○をつけていただきたいと思えます。最後の方、下の方に四角で囲ってありますけれども、自由意見ということで、記入例を参考にさせていただいて、どんな意見でも結構です。自由意見のご記入をお願いいたします。今後の施策を考えたり、進めていくにあたっての参考にさせていただきます。この効果検証につきまして、下の方に書いてありますが、7月14日(金)までにご提出をお願いします。もし、データ等が良いという方がいらっしゃいましたらデータの方ご対応いたしますので、後もってご連絡をお願いいたします。よろしく願いいたします。

○百武会長

説明を終わりました。効果検証シートの提出についてのお願いでございます。これについてご質問等ございましたらお願いいたします。

はい、よろしいですかね、それでは先ほど説明がございましたように、7月14日まで、ということで提出をよろしく願いしたいと思えます。それでは、以上で協議事項の方を終わりたいと思えます。皆様方、本当にいろいろな意見を出していただきました。ありがとうございました。それでは事務局にお渡しします。

8. その他

○喜多総合戦略課長補佐

ありがとうございました。それでは、その他の項に入りたいと思えます。まず、魅力ある肥前白石駅プロデュース事業について説明をいたします。先ほどの資料4になります。よろしく願いいたします。

○辻白石創生推進係長

それでは、資料4の1枚紙の方をご覧ください。左上に肥前白石駅プロデュースと書いておまして、放課後起業クラブという1枚資料でございます。これにつきましては、地方創生を目的とした魅力ある肥前白石駅プロデュース事業としまして、高校生・大学生を対象とした肥前白石駅魅力化プロジェクト「放課後起業クラブ」開催のお知らせ通知となっております。肥前白石駅を活用して、白石に若者が集まる仕組みをビジネスとして形にせよ、ということをお題としまして、プレゼンコンテストの優勝を目指しながら働くカッコいい大人の間力とビジネス力を仲間と鍛える4日間のサマーキャンププログラムとなっております。真ん中の方にプログラムの主なスケジュールということで、8月7日(月)から8月10日(木)までの4日間、場所は肥前白石駅、元気のたまご、総合センターで行います。左下に応募条件がありますけれども、定員は高校生、大学生20名となっております。現在18人の応募がっております。最終日の8月10日(木)なんですけれども、プレゼン発表会を予定しています。ここには10時から17時となっております。午前中の10時から13時までは、リハーサルにあてておりますので、プレゼンの本番につきましては13時から総合センターで行います。委員の皆様方でも、ご都合がつかれましたら、8月10日(木)のプレゼンコンテストにお越しいただけたらと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

○喜多総合戦略課長補佐

ただいまの説明についてご質問等ございませんでしょうか。

よろしいですかね。はい、それではご質問等無いということで、もし何かありましたら総合戦略課の方に来ていただければなんでもお答えできるかと思っておりますので、よろしく願いいたします。それでは私の方から事務連絡をいたします。この推進会議の資料と、今日、お話いただいた議事の議事録につきましては、HPで公開をすることとなっております。ただ、公表にあたって、みなさまの個人の氏名は伏せさせていただきます。数値や語句の言い間違いなどが私たちの中でもあったかも分かりませんが、そういったところも修正したうえで、皆様にご確認のためにお送りをさせていただきます。その後、公表したいと考えております。この推進会議については、今年度は1回だけの予定となっております。ですが、必要に応じて開催することがあるかもしれません。その際にご連絡をさせていただきます。よろしく願いいたします。後ですね、この総合戦略は6年度までということになります。また来年度は、今年度の実績を評価していただくということになっております。そういった形で、今年度ではないかと思うんですが、来年度、総合戦略が来年度でおしまい、ということになりますので、次の総合戦略を策定しなければなりません。どうしていくのかというところの方針が決まり次第、皆様にお知らせしたいと思っております。ですので、来年度は何回も来ていただいたりする必要があるのかも分かりません。すみません、その際にご迷惑をおかけしますがよろしく願いいたします。私の方からは以上です。皆様から何かありましたら全てまとめた形でも結構ですので、今までお話をしてきた中で何かあ

りましたらよろしく願いいたします。

よろしいですかね、何かありましたらまた、総合戦略課の方にでもよろしく願いいたします。

9. 閉会

○喜多総合戦略課長補佐

それでは式次第9番、閉会ということになります。本日は長時間にわたってご協議いただきありがとうございました。これをもちまして、令5年度第1回白石町まち・ひと・しごと創生推進会議を閉会いたします。ありがとうございました。お疲れ様でした。